

市民の自由な活動の場としての公園マネジメント研究会

活動報告書

福本 優  
岡 絵理子  
安田 卓弘  
清水 美沙

## 千里南公園における公園の魅力と参加意向に関するアンケート

### 【目的】

2019年に整備された公園内のカフェの利用の有無による公園の利用の違いを明らかにした。また、公園の魅力だと感じている点とこれからあればよいと感じる活動や利用、市民も持続的にかかわり続けられる公園となるために公園での活動への参加意向について問うた。さらに、魅力を感じる点とあればよい活動・利用、公園への参加意向の関係性を明らかにすることで、今後、市民も公園に持続的に関わり続けられるために必要な整備について考察を行った。

### 【調査の方法】

アンケート調査は、現地での対面式アンケート調査を行った。実施日及び実施時間は、2020年10月21日（水）、24日（土）、28日（水）、11月14日（土）、25日（水）、28日（土）の6日間、10：30～16：30に公園内に2～3人の調査員を配置し行った。また、雨天での調査は行わなかった。対面式アンケート調査の対象は、カフェを利用していない利用者とした。また、カフェ利用者については、カフェ内にアンケート用紙及びアンケートフォームにリンクするQRコードを設置し行った。実施日は、2020年10月5日（月）～12月5日（土）の期間にカフェ内に設置して実施した。

## 【設問の構成】

質問の構成は、次の表に示す。

<b>【公園利用の実態】</b>		
問1	今日、誰と公園に来ましたか？	1人／家族（夫婦）／家族（子連れ）／友人／恋人
問2	何時に公園につきましたか？	
問3	どの入り口から入りましたか？	4択
問4	公園の利用頻度をお聞かせください	毎日／週に2, 3回／週に1回／月に1回／数か月
問5	公園での滞在時間はどれくらいですか？	30分未満／30分以上1時間未満／1時間以上3時間
問6	今日、どのように公園で過ごしますか？	複数回答
問7	よく滞在する場所はどこですか？	複数回答
<b>【公園の魅力について】</b>		
問8	緑が豊富だ	5段階評価
問9	円形広場があり遊びやすい	5段階評価
問10	釣り堀があって良い感じ	5段階評価
問11	駅前近くで利用しやすい	5段階評価
問12	園路が広くてジョギングやランニングしやすい	5段階評価
問13	花壇の草花の手入れが行き届いている	5段階評価
問14	遊具や健康器具が充実している	5段階評価
問15	芝生の広場や東屋がありくつろぎやすい	5段階評価
問16	池があって気持ちいい	5段階評価
問17	駐車場があって利用しやすい	5段階評価
問18	カフェがあって良い感じ	5段階評価
問19	いろんな道を選べて歩きやすい	5段階評価
問20	自転車で利用しやすい	5段階評価
<b>【公園にあると素敵だと感じる利用方法】</b>		
問21	サッカーなどのスポーツ教室	5段階評価
問22	スタンドカフェやポップアップストア	5段階評価
問23	マルシェイベント	5段階評価
問24	自由に借りられる本棚や自由に移動できる椅子	5段階評価
問25	グランピングのように宿泊する	5段階評価
問26	食事やBBQ、お酒を楽しむ風景	5段階評価
問27	小さなプールを使って子どもたちが水遊び	5段階評価
<b>【公園活動への参加意向】</b>		
問28	自由に花の植え替えや管理ができるボランティア	5段階評価
問29	公園内での屋台・ポップアップストアでの出店	5段階評価
問30	広場で行われるヨガ教室などへの参加	5段階評価
問31	公園の道や花壇の清掃ボランティア	5段階評価
問32	花と緑のフェア等のマルシェイベント参加	5段階評価
問33	公園の自然や広場を利用した出展	5段階評価
問34	自由回答	

## 【結果 全体像】

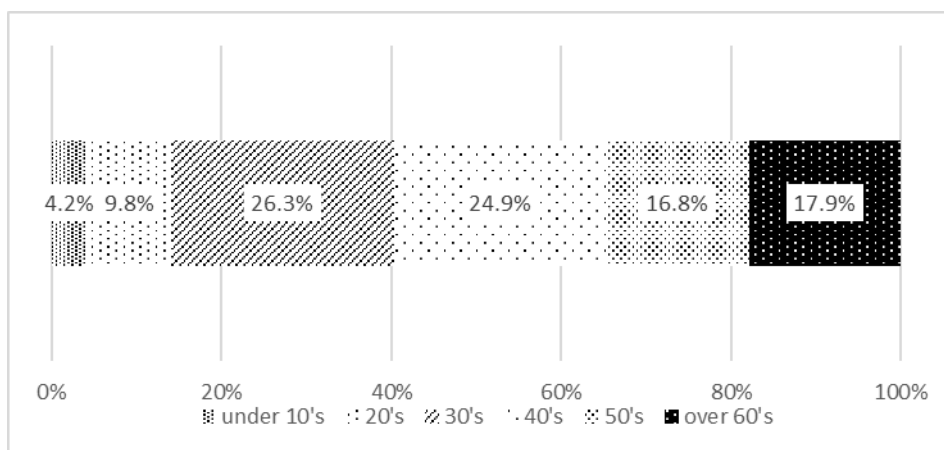
### ・回答数と有効回答について

総数	287
無効回答	2
有効回答	285
有効回答率	99.3%

公園利用者	114
カフェ利用者	171

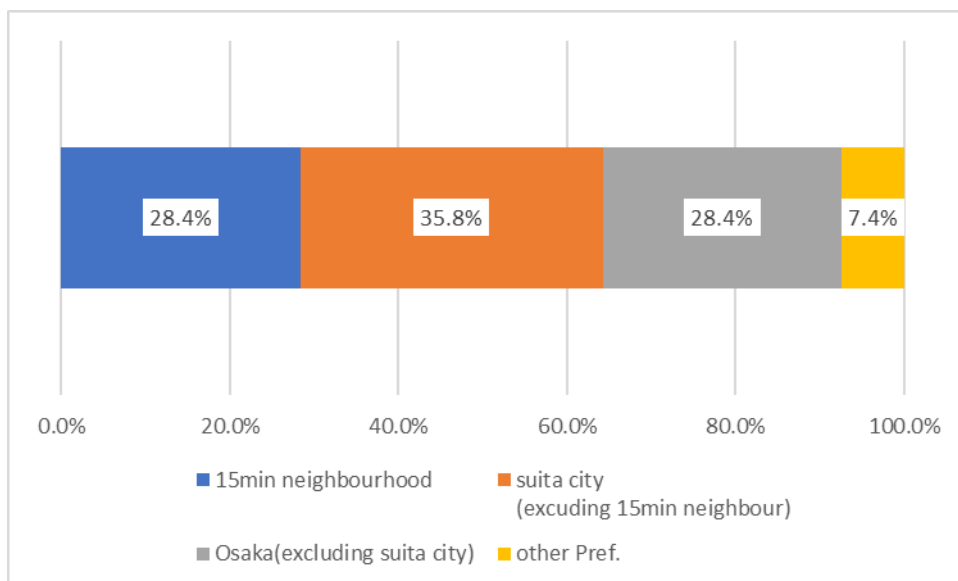
回答は全体で 287 票であった。設問の中に未回答のあったものを無効回答とし、得られた有効回答は 285 票、有効回答率は 99.3%であった。また、回答者のうち、公園利用者は 114 票、カフェ利用者は 171 票であった。

### ・年齢構成について



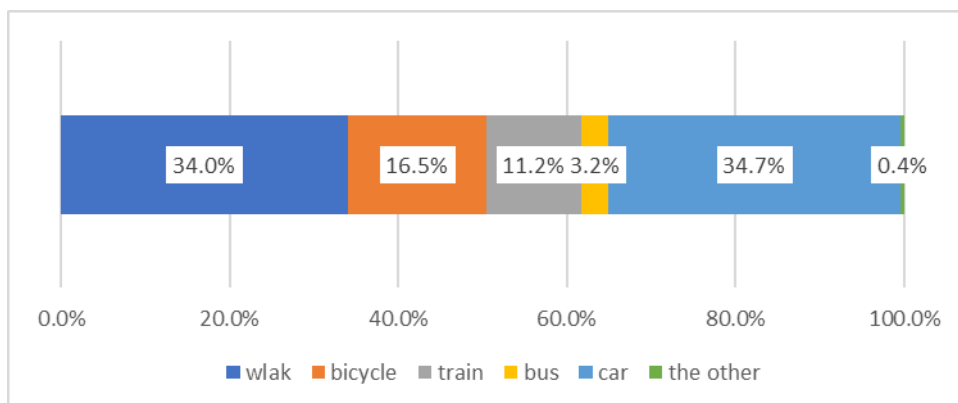
30 歳代と 40 歳代がそれぞれ約 25%ずつの回答があり、合わせると半数近くとなった。ついで、60 歳代以上、50 歳代、20 歳代となった。

・居住地について

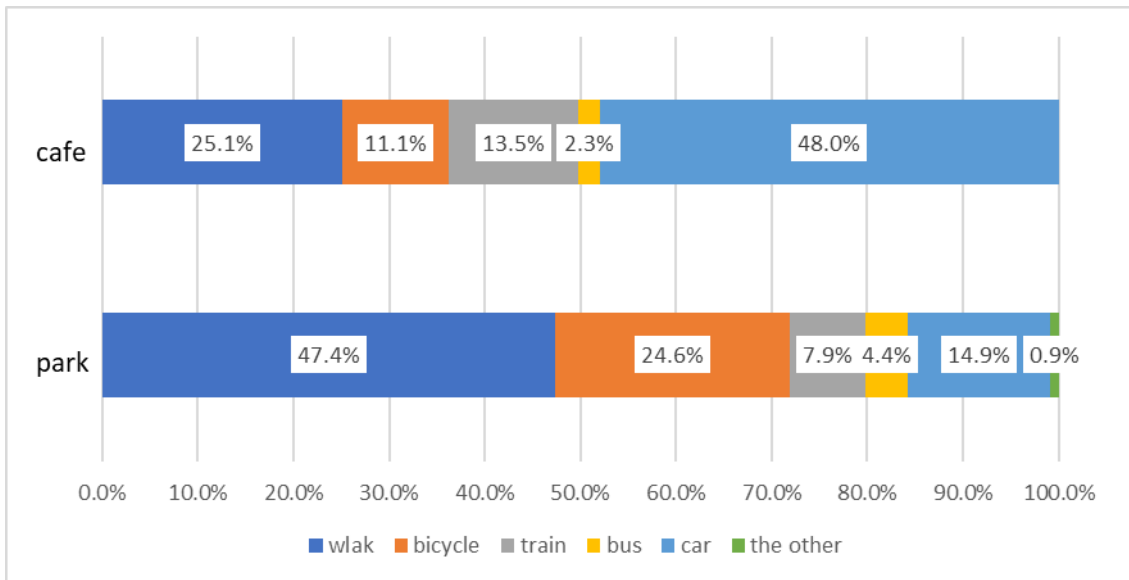


回答者のうち、28.4%が千里南公園の徒歩圏であり、南千里を地区センターとする5つの住区の居住者であった。最も多かったのは、吹田市在住の居住者であった。他府県からの利用者からも7.4%の回答を得た。

・交通手段

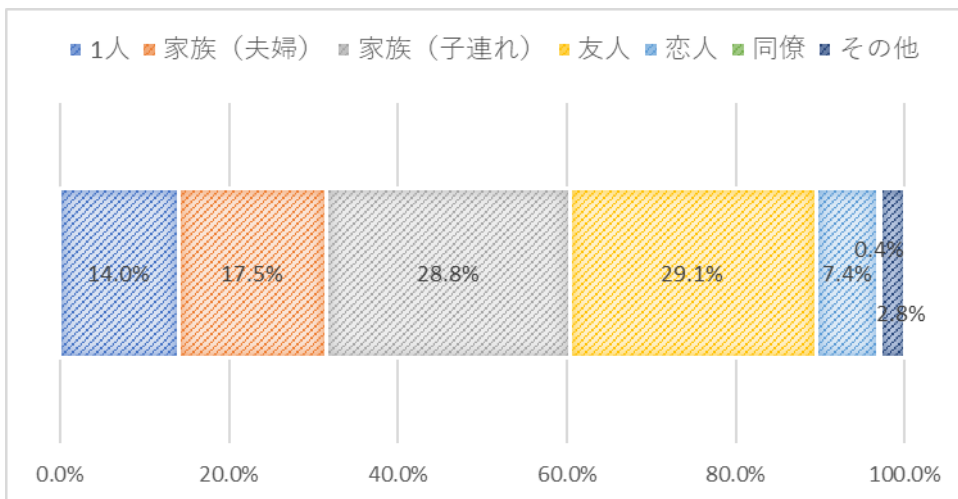


公園への交通手段の全体での割合は、上の図の通りである。これを公園利用者、カフェ利用者の別でグラフにすると下図のようになる。



公園利用者の半数近くは徒歩で講演を利用しているのに対し、カフェ利用者の半数近くが車で公園を利用していることが分かった。また、公園利用者の 24.6%が自転車を利用しており、徒歩と自転車を合わせると 72%となった。

・公園に誰と来ているか



公園には、友人と訪れている人が最も多く、29.1%と3割近くを占めている。次に、子供連れの家族で訪れている人が 28.8%で夫婦だけの家族で訪れている 17.5%と合わせると、家族で訪れている人は 45.3%と多くなった。また、一人で利用している人も 14.0%と少なくなかった。

### 【カフェ利用の有無による滞在時間の違い】



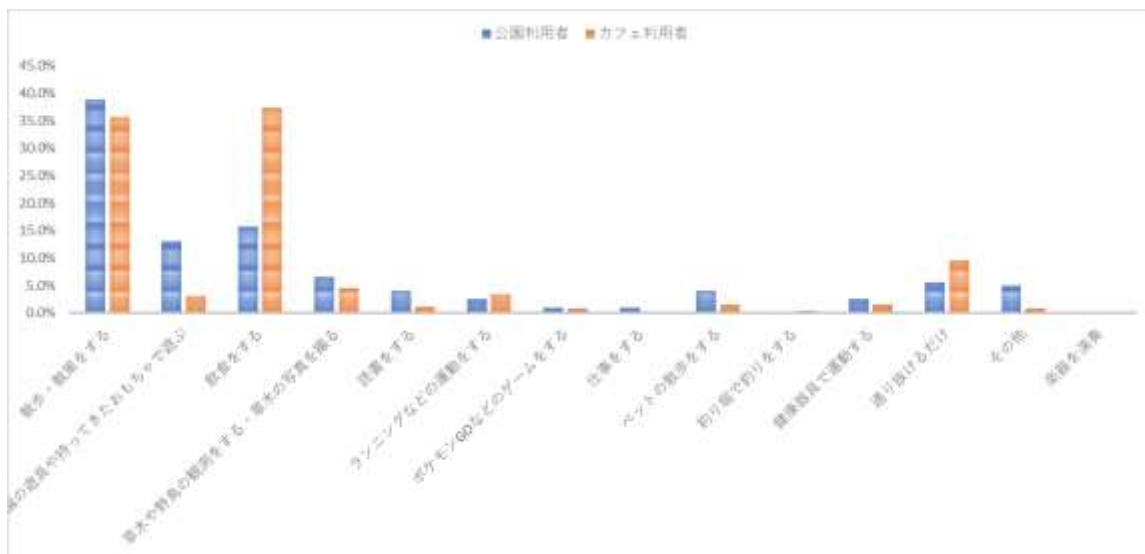
公園利用者とカフェ利用者の回答者群との差はカイ二乗検定により 5%水準で独立性を検定した。

公園利用をしている利用者は、「1時間以上3時間」までの利用が40.4%、次いで「30分から1時間」までの利用が29.8%、「30分未満」の利用が16.7%であった。

カフェ利用者は、「1時間以上3時間」までの利用で全体の半数を占めていた。「30分未満」「30分から1時間」の利用はそれぞれ14.6%、15.8%とほぼ同程度であった。

「30分から1時間」までの利用については、公園利用者とカフェ利用者では数字が大きく異なり、公園利用者の方が多く、「1時間から3時間」までの利用ではカフェ利用者の方が多いことが分かった。カフェ利用により1時間を超える比較的長い時間、公園に滞在する傾向にある一方、「滞在しない」と回答した人も多く、カフェには長く滞在するが、公園は利用しないという利用者が10%以上見られた。

### 【カフェ利用の有無による公園での過ごし方の違い】



公園利用、カフェ利用の別に関わらず、公園内を散歩・散策するという利用者は、それぞれ 35%程度存在していた。

一方で、公園での過ごし方について、公園利用者は「遊具やおもちゃで遊ぶ」や「飲食をする」人が同じくらいの割合で存在することに対し、カフェ利用者は遊具やおもちゃで遊ぶことはせず、飲食をして過ごすことがわかる。公園内は通り抜けるだけというカフェ利用者も 10%近く存在していることが明らかとなり、公園利用者よりも多くの利用者が公園を通り抜けるだけの場として利用することがわかった。

### 【結果 お気に入りの場所】



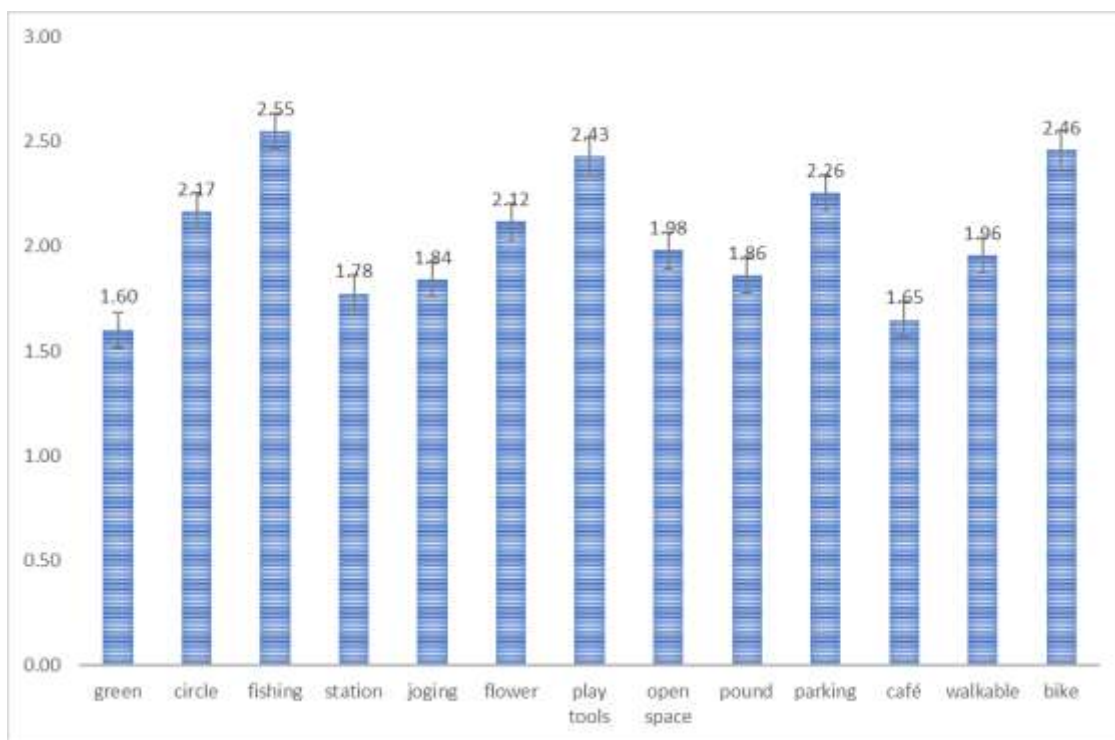
公園利用者、カフェ利用者ともほとんどが利用する「並木道」「池の近くのベンチ」「期の



近くのベンチ」は同程度の割合でお気に入りの場所として回答されている。一方、「円形広場」や「東屋」、「遊具」などの場所をお気に入りの場所としているカフェ利用者は公園利用者に比べるとかなり少ない。公園利用者は回答率に差はあるものの、カフェ利用者に比べ、まんべんなく回答があり、多様な利用者がそれぞれに好みの場所を作って利用していると考えられる。

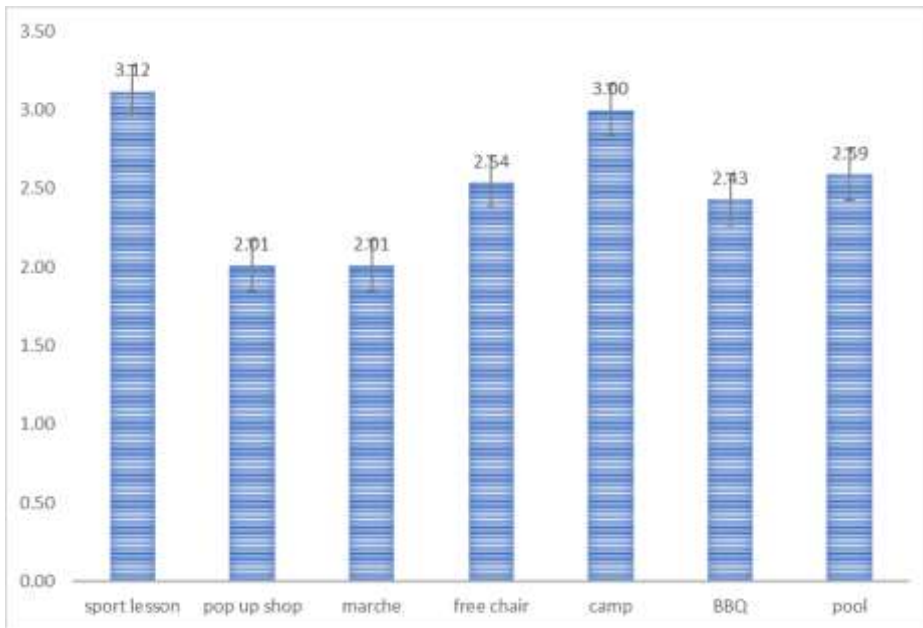
一方、カフェをお気に入りと答えたカフェ利用者は 38.4%と、他の場所に比べ最も多い回答となった。「釣り堀」や「ステージ」、「丘の上の広場」のような公園内で奥まった位置にあるような場所は選択されておらず、カフェを気に入って利用しているが、公園を隅々まで楽しんでいるわけではない実態が明らかとなった。

### 【公園に魅力を感じる点】



公園の魅力について、「緑が豊富な点」がもっとも魅力ととらえられており、平均点で 1.6 点であった。また、「カフェがあること」も 1.65 点と同様に魅力ととらえられている。また、「駅が近くにある」ことも 1.78 点と良い評価を得た。

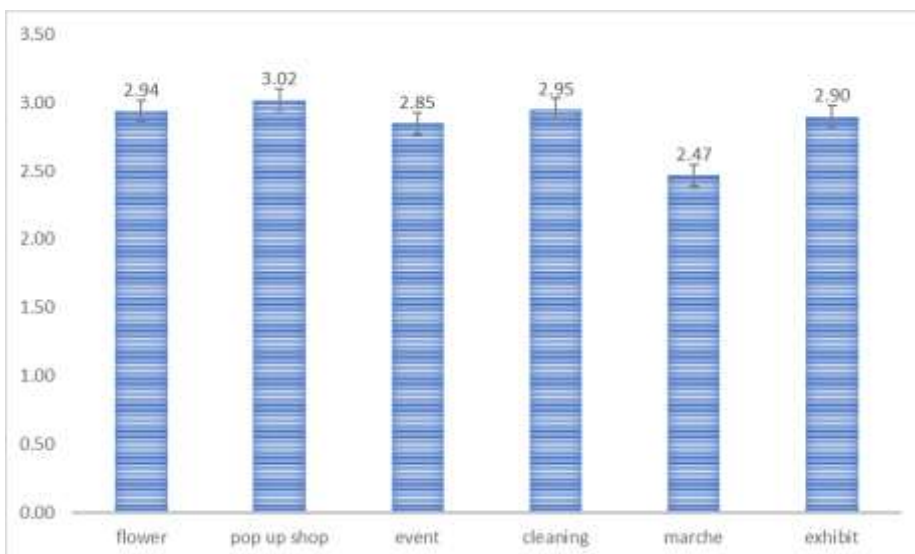
### 【こんな風景（活動・施設）があればよいと思うもの】



公園内で今後あったらよいと思う風景（活動・施設）について問うと、「ポップアップによるお店の出店」や、それらが集う「マルシェ」が最も評価が高く、2.01点であった。「BBQができる施設」や「子どもたちが水遊びができるようなアクティビティ」、「自由に動かし、利用できる椅子やテーブル」がいずれも2.5点程度であって良いと評価されている。

一方で、「公園内でのスポーツ教室」は3.12点とあるべきではないと評価されており、宿泊を伴うような「グランピング施設」については、どちらともいえない結果となった。

### 【公園への参加意向】



公園での活動に自ら参画したいと評価されたものは、「マルシェ等のイベントへの参加」

であった。公園での花壇や清掃ボランティアや主体的な出展者としての活動については、2.85点から2.95点と評価され、マイナスの評価とはなっていないものの、積極的に参加するという評価には至っていない。また、「ポップアップショップでお店を出店する」ことについては、マイナスの評価となった。

【「あればよいと感じる風景」と「公園の魅力」と「公園への参加意向」の関係】

3つの設問について、因子分析により分析を行った結果が下記の3つの表となった。

・あればよいと感じる風景

	Factor1	Factor2	Factor3
pop.up.shop(b2)	0.95641	0.106987	0.262361
marche(b3)	0.606365	0.288795	0.158113
sport.lesson(b1)	0.265435	0.516603	0.331628
pool(b7)	0.124053	0.794381	0.270371
BBQ(b6)	0.288891	0.299264	0.638552
camp(b5)	0.1606	0.29527	0.727629
free.chair(b4)	0.296573	0.475676	0.381242

将来、「千里南公園にあればよいと感じる風景」について因子分析を行うと、因子1：お店がある風景、因子2：運動する風景、因子3：アミューズメントがある風景の3つの因子を見出すことができた。

・公園の魅力

	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	Factor5	Factor6
広場空間(a8)	0.5501855	0.6249841	0.2080654	0.189461	0.0646465	0.0513469
豊かな緑(a1)	0.7027721	0.2294151	0.1883116	0.1114696	0.2055238	0.2879569
駅近立地(a4)	0.5339996	0.2073877	0.3031141	0.1205256	0.291174	0.0490322
カフェ(a11)	0.6371281	0.076373	0.4448726	0.1626843	0.1707609	-0.002646
池(a9)	0.6919191	0.4337498	0.1555231	0.2197297	0.1417212	-0.058995
遊具・健康遊具(a7)	0.1204149	0.6662506	0.247871	0.1698118	0.1544344	0.1123626
花壇やお花(a6)	0.3286344	0.5312013	0.3018665	0.1318063	0.2029661	0.0177543
駐車場(a10)	0.3152753	0.1943885	0.5491222	0.0917064	0.0901576	0.0739579
自転車であやすい(a13)	0.1394567	0.3068845	0.6220656	0.1936584	0.0949947	0.0639214
釣り堀(a3)	0.2122893	0.2340991	0.2068058	0.9157299	0.0987226	0.063679
ジョギング(a5)	0.4690237	0.3188113	0.189148	0.1409285	0.6710379	0.115752
円形広場(a2)	0.2500811	0.4538661	0.2693331	0.315523	0.2836477	0.4088075
色んな道を選べる(a12)	0.3828803	0.4406374	0.4255517	0.0933722	0.3075065	0.0041813

公園の魅力に関して因子分析を行うと、因子1：カフェのある公園らしい環境、因子2：遊具や花壇などのアメニティ、因子3：アクセス利便性の3つの因子が見られた。

・公園への参加意向

	Factor1	Factor2	Factor3
exhibit(C6)	0.59981	0.304307	0.473773
event(c3)	0.5997	0.402071	0.224628
marche(c5)	0.772585	0.223358	0.192044
cleaning(c4)	0.364408	0.631132	0.439352
flower(c1)	0.295293	0.906936	0.184342
pop.up.shop(c2)	0.472366	0.382225	0.406988

公園での活動への参加意向に関して因子分析を行うと、因子1：展示やマルシェなどのイベントへの参加、因子2：清掃や花壇整備などのボランティア参加の二つの因子が見いだせた。

上記の因子分析の結果から、公園に新たに欲しい施設としては店舗系、運動系、アミューズメント系の3つの方向性でグループにわかれ、公園の魅力は全体の環境、アメニティ、アクセスの3つの観点で魅力を感じ、公園への参加についてはイベントへの参加、ボランティア的参加の2つの方向性があることが明らかとなった、ソフト事業により公園の活性化を図る際には、こうした利用者の特性を意識したイベントの組み立てが必要であると考えられる。

また今後の課題は、より詳細にデータを分析することにより、これらの設問間の関係性について分析を行う必要がある。どのような公園の整備意向を持った人が、公園をどう評価し、どう公園に参画してくれるかの関係性を見ることで、行政や民間事業者だけでなく、市民も参加した公園のマネジメントの在り方について検討する必要があると考える。

## 公園の利用実態調査

### 【目的】

公園内の利用について、世代、利用方法、時間帯の3つの観点から現地調査を行い、実態を把握することを目的とした。

公園内の利用特性を把握することで、今後の空間整備等の際に重点的に取り組むべきエリアなどを考察した。

### 【方法】

調査員がカメラを持ち、所定のルートで公園内を一周し、公園利用の様子を記録した。映像から、世代、利用方法を判断し、地図上にプロットした。

### 【結果】

下記の図のようにプロット図を作成した。カフェ周辺や広場に多くの人々が滞留していることが明らかとなった。このデータと従前（2017年）の利用データと比較の上することで、利用実態の変化の詳細を明らかにすることが今後の課題である。

